患者・家族を支える入退院支援

座長 萬谷和広[†] 瀬田公一^{*}第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (179-182) 2022

要旨

現在の医療機関体制は、機能分化、DPC（包括評価制度）による入院期間の考え方、「入退院支援加算」「入院時支援加算」「介護支援等連携指導料」「退院時共同指導料」などの入退院支援、地域の支援者との連携といった診療報酬上の評価の影響を受け、在院日数が減少する傾向となっている。この状況下では、入院前の外来受診の段階から、あるいは入院間もない時期から退院に向けた支援が開始され、その患者の状態に応じた機能を有する医療機関への転院、あるいは施設や在宅生活へ円滑に移行することが求められることになる。

しかしながら、医療関係者は、単に退院の促進を行っているわけではない。それぞれの専門職が、専門性を発揮して、その短い在院日数の中で質の高い支援を行い、退院後も引き続き安心して療養生活が継続していくための支援を展開しているのである。また、そこでは、各専門職が単独で支援を展開するだけでなく、他職種と連携や協働を行い、チームとして取り組むことも多く、それらの取り組みが、結果的に患者・家族を支えることに繋がっている。

本シンポジウムでは、管理栄養士、看護師、作業療法士、ソーシャルワーカーという多職種がシンポジストとなり、異なる立場から日常業務として取り組んでいる入退院支援の現状や、他職種、他機関との連携や協働等についての報告と、その報告に基づき総合討論を実施した。そこで本論では、各シンポジストの報告の概要と、ポイントとなる内容を示した上で、総合討論等で明らかになった、明日からの入退院支援のヒントになりうる要因について整理していく。

キーワード 入退院支援, 連携, 協働

「入退院支援に対する栄養士の関わりと今後の課題について」

(国立病院機構南京都病院：山地聡子主任栄養士)

本報告では、「入院時支援加算」、「入退院支援加

算」、「退院時共同指導料」といった診療報酬に関連した管理栄養士の関わりについて、結核病棟における管理栄養士の介入について、そして、国立病院機構近畿グループの栄養士における入退院支援への関わりに関する実態調査についての報告があった。

国立病院機構大阪南医療センター 地域医療連携室、*国立病院機構京都医療センター 地域医療部 腎臓内科
[†]医療ソーシャルワーカー著者連絡先：萬谷和広 国立病院機構大阪南医療センター 主任医療社会事業専門職
〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町2-1

e-mail: mantani.kazuhiro.wk@mail.hosp.go.jp

瀬田公一 国立病院機構京都医療センター 地域医療部長

〒612-8555 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1

e-mail: kseta@yahoo.co.jp

(2021年1月15日受付, 2021年10月15日受理)

Hospitalization and Discharge Support for Patients and Their Families

Kazuhiro Mantani and Kouichi Seta*, NHO Osakaminami Medical Center, *NHO Kyoto Medical Center

(Received Jan. 15, 2021, Accepted Oct. 15, 2021)

Key Words: hospitalization and discharge support, cooperation, collaboration